

福井ふるさと学びの森あわらエリア第5弾

「孟宗竹・真竹を利用した竹細工を作ろう！」

- 1 日時：平成27年11月28日（土） 9：30～12：30
- 2 場所：福井ふるさと学びの森あわらエリア 波松民有林、波松小学校体育館
- 3 参加者：一般県民33名
- 4 指導者：里山里海湖研究所 ふるさと研究員 河田 勝治さん



（あわらの自然を愛する会）

5 内容：

前日からの荒天により、参加者が竹林に入って間伐する体験はできませんでしたが、会場を波松小学校の体育館に移し、竹細工に挑戦しました。

まずは、竹についての説明を、あわらの自然を愛する会会長の河田さんから受けました。

最初に、「竹は“木”でしょうか？それとも“草”でしょうか？」という河田さんからの問いかけに、参加者のみなさんは首をかしげていました。ほとんどの方は“草”だと回答していましたが、正解は“どちらでもない”ということでした。それでも、「竹はイネ科の植物なので、どちらかと言えば“草”に近いと思います。」という説明を聞いて納得した様子でした。

つづいて、孟宗竹と真竹の違いについて説明を受けた後、実際に参加した子どもたちが、太い孟宗竹に挑戦しました。

周りで大人が竹を支えているとはいえ、使い慣れないのこぎりや竹の丸みに悪戦苦闘。それでも、切り落とした瞬間の満足げな表情が印象的でした。



次は、真竹を利用した筆立てづくり。孟宗竹切りで慣れたせいも、子どもたちは真竹を順調に切り落としていきます。ただし、今度はまっすぐに切らないと、立てることができないことに気づき、四苦八苦。すこし傾いているものもありましたが、手作りの味が出ていました。

切り終えた竹に、自然を愛する会の会員のみなさんが穴をあけてくれます。のこぎりとなたを使って、気持ちいいくらい「パカン」と割っていく様子に、興味津々でした。



最後に、筆をつるすフックとなる竹の棒をつけて完成です。

筆立てづくりの次はコースターづくりをしました。

こちらは、元竹職人という越前市の谷口さんから指導を受けました。谷口さんは、なたや小刀を器用に使って真竹の皮をそいでいきます。この技術には、子どもたちだけでなく、いっしょに参加した大人たち、自然を愛する会のメンバーも感心していました。



谷口さんがつくった竹の板を縦横に編んでコースターの形にしていきます。皮の部分の緑色と、内側の白い部分が、くっきりとしたコントラストを描き、美しい模様のコースターができました。



寒い冬の訪れを感じさせるような一日でしたが、家族連れはもちろん、60歳以上の男性が3人（それぞれ単独での参加）も参加してくださり、竹細工の魅力の高さを感じることができました。プラスチック製品の台頭により、その存在価値が薄くなりがちな竹ですが、健全な里山を守るために、その利用価値などに再びスポットを当てたいけるような事業を考えていきたいと思えます。

今後さらに多くの県民の皆様にも、里山里海湖の魅力を味わっていただけるような機会を創出していきたいと考えています。



本年度の「福井ふるさと学びの森 あわらエリア」におけるイベントは、今回で終了となります。

参加していただいたみなさん、ありがとうございました。

「参加者の声」

- ・竹でいろいろなものを作ることができて、勉強になりました。
- ・昔からの知恵なども知ることができ、素晴らしいと思います。
- ・（竹細工の）できあがりよかった。
- ・いろいろなものを作れて楽しかった。
- ・竹でいろいろなものを作って、持って帰れるところがいいと思いました。
- ・コースター作りが楽しかった。
- ・普段できないことができて楽しかった。